

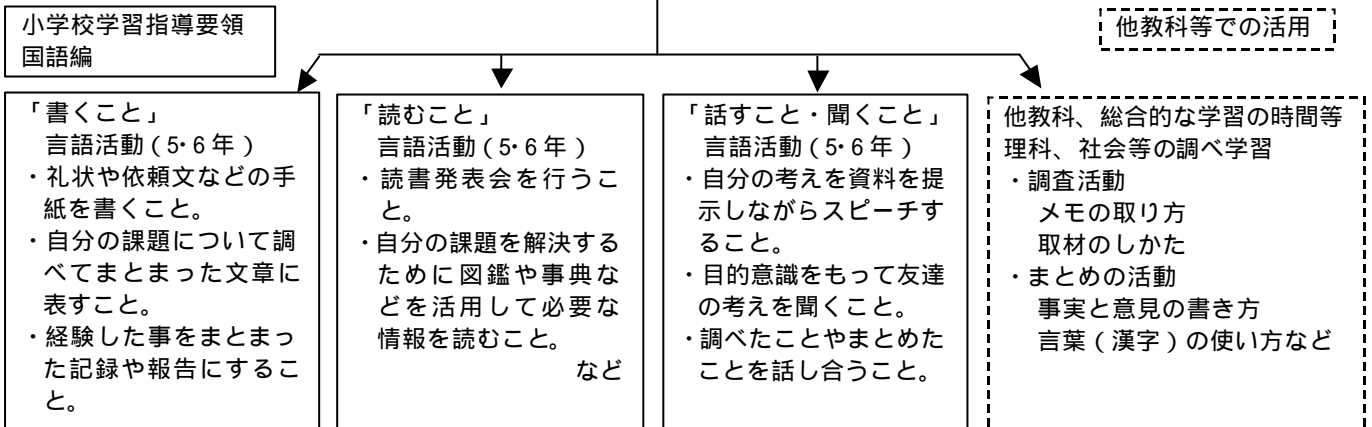
5 第6学年 年間指導計画例

(1) 5・6年の学習内容（言語事項）

| 学年 | 5年 | 6年 |
|------|--|--|
| 学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・仮名づかいのまとめ（2） ・漢字の成り立ち（2） ・方言とアクセント（2） ・言葉の使い分け（2） ・国語辞典を使おう（2） ・漢語・和語・外来語（2） ・漢字の読み方・使い方（2） | <ul style="list-style-type: none"> ・似ている漢字〔五年生の漢字〕（1） ・敬語（2） ・同じ訓を持つ漢字（2） ・漢字の読み方 ・使い方〔五年生の漢字〕（1） ・日本で使う漢字（2） ・漢字の形と音・意味（2） ・漢字辞典を使おう（2） ・送り仮名（2） ・覚えておきたい言葉（2） ・熟語の成り立ち（3） |

(2) 言葉のハンドブックの活用例

* 下線は、本単元と関連のある学習



(3) 指導と評価の計画

実態把握：第5学年までに学習した熟語の定着状況を把握し、熟語のカードで扱う熟語の選定や、個に応じた支援に役立てる。

| | 学 習 活 動 | 教師の指導・支援 評価（…主たる評価規準） |
|-----|---|---|
| 第1時 | <p>熟語の成り立ちを考えよう。</p> <p>熟語を4つの仲間に分けよう！ 読み方、言葉の意味、仲間分けについて話し合う。 「天地」「売買」「豊富」「古都」「洗顔」など ヒントカード（2観点についての記述があるもの）を参考に考える。 仲間分けの観点について発表する。 4つの成り立ちを知り、それ以外にも意味があることを知る。 「言葉のハンドブック」にまとめる。</p> | <p>熟語ボックス【～（ハンドブック）の観点で選んだ熟語のカードが入っているもの】をグループに1セットずつ配り熟語を分類することを知らせる。 熟語の成り立ちに着目できるようにするために2観点をヒントに残りの観点を考えられるようにする。 2観点のヒントカード訓読みを手掛かりにすると、関係が分かり易いことや他の観点にも気付くように助言する。 漢字三字以上の熟語の成り立ちについて知らせる。 熟語の分類やクイズ作りの話し合いに進んで参加しようとする。 ヒントカードを基に漢字二字の熟語の意味について考えている。</p> |
| 第2時 | <p>辞書を使って熟語の成り立ちクイズをつくろう！ 前時に学習したことを基にクイズの作成の仕方について学ぶ。（教師が作成したクイズ例） 自分たちでも同じようなクイズを作ってグループ対抗で出題し合う準備をする。 辞書を使って熟語を探したり、教科書から探したりする。</p> | <p>児童がクイズを作る時の参考になる問題を出題する。</p> <p>クイズ例 漢字たし算 漢字虫食いクイズ等</p> <p>熟語の構成の特徴を理解し、身近な熟語を構成ごとに分類している。 熟語の読み方や意味などについて国語辞典や漢和辞典を活用して調べている。</p> |
| 第3時 | <p>熟語のクイズ大会を通して成り立ちをまとめよう！ グループ対抗で出題し、クイズに答える。 出題された熟語を成り立ちごとに分類し、一覧としてまとめる。</p> | <p>ルールを説明する。 解答をカードに書かせ、成り立ちごとにその場で分類できるように助言する。 熟語の構成の特徴を理解し、身近な熟語を構成ごとに分類している。 熟語の読み方や意味などについて国語辞典や漢和辞典を活用して調べている。</p> |

言語環境の整備：学習したことを生かし、言葉への関心を広げていくために教室内に「言葉の広場」のコーナーを常設する。

